

# 中学生の作文書き方講座

## 覚えておこう！！＜作文の基本原則＞

### 1. 原稿用紙の使い方

#### --- 5大原則 ---

①文章の書き出しは一マス空けて

②一マスに一字、一記号が原則

文字はもちろんのこと、句読点、カギカッコなども一字分のマスを使って書く。但し、「ー」(ダッシュ、中線)、「…」(てんてん)は二マスを取る。

③会話文の始まりは行を変える。

会話文の場合は行を変えて、いちばん上のマスから書き始める。

④会話の末尾は、。と」を一マスに

会話文のおしまいは、。と」を一つのマスに同居させて書く。行の始めには「、」や「。」はつけない、と覚えておこう。

⑤改行するときも一マス空ける

改行したら一字下げて書き出す。段落の書き出しは常にこの形になる。

### 2. 漢字は正しく書く

(注)わからないときは仮名書きにするか、言いかえること

### 3. かなづかいを正確に

①「ぢ」や「づ」は使わないのが原則で「じ」「ず」で書き表す。

但し、(a)二語がつながって「ち」や「つ」がにごる場合、(b)同音の連呼の場合は「ぢ」「づ」と書く

(a)の例 鼻血(はなぢ) 三日月(みかづき)

(b)の例 ちぢむ つづみ つづく

②長音はそれぞれのかなで表記

伸ばす音(長音)は、それぞれのかなで書き表すこと。  
ただし、オ列の長音は「う」で書く。  
例)おにいさん。おとうさん。

#### 4. 読点は適切に打つ

読点(、)を打つ大原則は、読みやすさとわかりやすさ。音読していて息がつかまる  
ところ、意味が二通りにとれるところには、忘れずに「、」を打つ。

#### 5. 主語と述語の照応

文意が読み手に正しく伝わるように、主語・述語の形を整えて書く。

#### 6. 送りがなにも注意

特に、語尾が変化する動詞や形容詞、形容動詞は、例のように活用語尾を送るの  
が大原則。

##### 語尾を送る語の例

書く(書かない、書きます、書くとき)のように変化する。

##### 覚えてしまおう！！

例外(a) 語幹が「し」で終わる形容詞

例 <sup>いちじる</sup> 著しい、<sup>お</sup> 惜しい、<sup>くや</sup> 悔しい

例外(b) 活用語尾の前に「か」「やか」「らか」がある形容詞

例 <sup>あたた</sup> 暖かだ、<sup>おだ</sup> 穏やかだ、<sup>やわ</sup> 柔らかだ

例外(c) 特殊なケース

例 <sup>あぶ</sup> 危ない、<sup>こと</sup> 異なる、<sup>みずか</sup> 自ら、<sup>わざわ</sup> 災い

# 作文一（入試対策）

## 入試で出る作文とは？

### 1. 公立高校における推薦入試の作文

課題で多いのは志望動機

出題は50分。600字が多い。

1)・三段構成で書く

- ①中心点 —— 初めに中心点を書き、
- ②その理由、根拠(具体例など)
- 次に、そう考える理由や、具体的事例をあげ、
- ③むすび —— 終わりに、中心点をまとめる

2)・自分の考えをはっきり出す。

3)・字数の条件は必ず守る。

4)・題名は書かない。

5)・主題を一貫させる。

6)・すっきりとわかる文章で、—— センテンスを短く

7)・文の終わりは明確にむすぶ

### 2. 一般入試での国語の作文

制限字数は100字以上から140字以内に

1)・二段構成にする。

- ①事実、体験
- ②感想、意見

2)設定された条件を守って書く。

3)最初に「感想」「意見」を考える。